



清光学園
りよた

第 18 号

児童養護施設 清光学園
園長 大島 啓一
岩手県花巻市石農合町
北寺林十一六八六五
電話番号
〇一九八・四五・五二七三
発行日
平成二十一年七月二十一日

創立三十周年
記念式典・祝賀会
を開催しました

皆様に支えられて三十年

平成二十一年十一月二十九日(日)、花巻温泉「ホテル紅葉館」

を開場に、社会福祉法人青松会 児童養護施設清光学園創立三

十周年記念式典・祝賀会を開催しました。

当日は総勢二百名を超える参加のもとに、盛大に式典・祝賀

会を挙行し、皆様に当学園の歴史を振り返りつつ、三十年の節

目をお祝いしていただきました。

お忙しい中、ご列席いただきました皆様方には心よりお礼

申し上げます。

理事長式辞



三十周年に当たって

社会福祉法人青松会が昭和五十四年四月、養護施設「清光学園」を開設して三十周年を迎え、現在まで物心両面にご高配を賜りました皆様にご心から深く敬意と感謝を申し上げます。

顧みまして施設の建設には、国、県、石鳥谷町、また地域の多くの方々よりご援助を受けまして完成し、運営には役職員一丸となって使命達成に精神努力して参りました。

幸いにして、この三十年間、関係官庁並び

に地域の皆様のご支援と指導によりまして、今日を迎える事の出来ましたことを喜びとするところであります。

思えば、現在は児童福祉法の改正により「児童養護施設」という種別名称になりましたが、三十数年前の岩手県には、親から一時離れて生活する子ども達を入所させる養護施設、特に幼児をお世話するところが不足しているとお聞きいたし、故石森貞三理事長と共に、その必要性を深く理解、共感し、施設の開設を決定したものであります。

昭和五十四年四月一日、幼児主体の定員三十名で開園しました。二歳児の幼子を見ると、じんと涙が出そうになり、胸熱くして、五里霧中の社会福祉事業を始めました。当時、何も分からぬままに、各施設長さん方よりアドバイスを頂いたことは忘れぬ思い出でもあります。

また、開園当所は財政面が特に厳しく、何もかも不足して、不用になった紙をメモ用紙にしたり、児童の通学カバンも地域に呼びかけ、使用しなくなったものを譲り受け使用するなど、苦慮する状況でありましたが、しかし、指導の理念である「太陽の如く明るく」が学園のモットーであり、大人も子どもも、

明るく楽しく、地域・学校に溶け込み、健やかに過ごすことが出来ました。

その後、昭和六十二年には定員五十名と増え、高校に進学して社会に巣立つ生徒も出て、今では二百人近くの児童を卒園させ、元気に世の中のために働いており、理事長の私にとって「頑張っています」という便りや、声を聞くと、嬉しく感ずるところです。

今日の社会福祉は、少子化や急速な高齢化社会への移行で大きな転換期であり、又、情報化の中で児童の姿も変化しており、施設の諸機能は時代の様々なニーズに応え得るよう、求められております。二十一世紀の新たな時代を利用児童が、快適で豊かな生活を営み、そして地域と共に歩み続けていくために、積極的な取り組みを図るよう、「調和」を大切に、役職員共に前進する所存であります。

今後皆様方のお一層のご厚情を賜りますよう、よろしくご願い申し上げます。

平成二十一年十一月二十九日

社会福祉法人 青松会
理事長 石森 絢子

当学園に多大なご支援を頂きました方々に、感謝状を贈呈
させていただきます。

感謝状贈呈

感謝状を受けたのは次の方々です。

・株式会社NTTドコモ東北支社様

・株式会社ヤマト様

・大島 恵司様

NTTドコ

モ様からは毎年、年末に多額のご寄付を頂いており、子ども達のために有効に活用させていただくことが出来ております。株式会社ヤマ

ト様は毎年焼肉にご招待下さり、毎回子ども達はおいしい焼き肉をおなかいっぱい頂いています。大島恵司様は当学園念願の学園歌の作詞・作曲をしていただきました。



役員表彰

長年にわたり社会福祉法人青松会の役員を努めてきた方の表彰を行いました。

理事 石 森 富 春

理事 八重樫 文 子

職員表彰

長年にわたり児童養護施設清光学園に勤務した職員の表彰を行いました。

事務 長 高橋 一 栄

個別対応職員 菅原 一 彦

保育士 菅原 雅 子



経過報告

大畠園長より当学園の経過について報告いたしました。



昭和五十四年の学園開設から第二棟増築による定員二十名増、体育館や渡り廊下の増築、分園型自活訓練事業の開始など学園の変遷やボーイスカウト活動や清光少年消防クラブでの数々の受賞等の子ども達の活躍について三十年間の歴史を振り返りました。

ご祝辞を頂きました



ご来賓の方々よりご祝辞を頂戴いたしました。

はじめに岩手県知事様（県南広域振興局花巻総合支局保健福祉環境部長、山目行人様）より「県民や地域の方々

からの期待に常に思いを馳せ、これまでにわたる経験と実績をふまえて今後とも本県の児童福祉の更なる向上のためになお一層尽力するように」とのご祝辞を頂きました。

また、花巻市長、大石満雄様からは市長さんご自身の学園の児童とのふれ合いの経験談を交えながら、子ども達に「みんなは社会に支えられて生きている」との温かいメッセージを送っていただきました。

岩手県社会福祉協議会会長様（事務局次長、小田原照雄様）からは「未来を担う児童の幸せと心豊かで健やかな発達を支援を行うように」との激励を頂きました。

岩手県議会議員、佐々木順一様からは「社会は今、コンクリートから人へ、子ども一人ひとりを社会全体で支援しようという方向に価値観や国の施策が方向を切っており、愛情を求める子ども達がいる限り、手をさしのべなければならぬ子ども達がいる限り、立派な子ども達を社会に送り出す仕事を続けていただきたい」とのメッセージをいただきました。ご祝辞を賜りました皆様に感謝申し上げます。



子ども達を社会に送り出す仕事を続けていただきたい」とのメッセージをいただきました。ご祝辞を賜りました皆様に感謝申し上げます。



祝賀会

参加者一同、創立三〇周年を祝って
いただきました

式典終了後の祝賀会では、ご参会の皆様が懇親を深めながら創

立三〇周年の節目を祝って下さいました。

懐かしい職員や退園生との久しぶりの再会もあり、当時の学園

生活を振り返りながら時間を忘れて思い出話をしたり、今までの学

園の歩みを振り返りながら話に花が咲いたり、とても楽しい一時

を送ることが出来ました。



アトラクションで

は地元花巻を代

表する郷土芸能の

一つである鬼剣舞

が披露され、勇壮

な踊りを楽しむこ



とが出来ました。また、学園生活や行事の

様子を納めたDVDの上演も行い、学園の

暮らしについて見ていただきました。

子ども達も花巻温泉でのいつもとちよ

とちがっごちそつに大喜びで、「おいしい」、

「おなかいっぱい」、等と話ながら、とても満足出来た様子でした。

祝賀会冒頭、花巻市議会の高橋議長様より「児童が自立した

人生を切り開くまでに成長するためには職員、地域、行政、企業な

ど社会全体で愛情溢れる温かな優しい心で包み込むことが大切」

とのお言葉を頂きました。また、花巻市社会福祉協議会の菅原副

会長さまからは当学園の謝恩激励会での情景をご紹介いただきました

が、乾杯のご発声を頂きました。名残惜しい時間ではありましたが、

最後に花巻市教育委員会、及川教育長様に万歳三唱を行っていた

いただきました。



当日、お忙しい中、時間を割いてご出席下さいました皆様とお祝いを頂戴いたしました皆様のお名前を紹介いたします。

(大変失礼ですが順不同、敬称略で記載させていただきます。)

岩手県知事 達増拓也、花巻市長 大石満雄、岩手県議会議員 佐々木順一、岩手県議会議員 高橋博之、岩手県社会福祉協議会会長 菅三郎、花巻市議会議長 高橋淑郎、花巻市社会福祉協議会会長 堀合徳身、花巻市議会議員 藤原米光、花巻市議会議員 櫻井肇、花巻市教育委員会教育長 及川宣夫、岩手県福祉総合相談センター所長 小林繁春、岩手県一関児童相談所長 稲田昌博、岩手県宮古児童相談所長 菅野啄也、青森県児童養護施設協議会会長 山口俊輔、宮城県児童養護施設協議会会長 菅原昭、山形県児童養護施設協議会会長 横田英雄、福島県児童養護施設協議会会長 神戸信行、岩手県児童養護施設協議会会長 刈谷忠、みちのくみどり学園長、藤澤昇、和光学園長 菅野八重子、青雲荘院長 佐藤孝、一関藤の園園長

マウエル、クリスタ、花巻市石鳥谷地区民生児童委員協議会会長 柳原榮、石鳥谷ライオンズクラブ会長 菊池軍司、来久保医院院長 似内裕、第三者委員 後藤成志、第三者委員 高橋久、十九区行政区長 佐々木敬一、花巻消防署石鳥谷消防分署長 佐々木英千代、岩手県立花巻農業高等学校校長 高橋嘉雄、岩手県立大迫高等学校校長 千葉仁、花巻市立石鳥谷中学校長 松原一彦、花巻市立石鳥谷小学校長 深田好昭、ゆもと幼稚園長 千葉善吉、杜陵学園長 中村純夫、ことりさわ学園長 高澤明邦、希望ヶ丘学園長 菊池敏夫、菽の江学園施設長 伝野和美、桐の里施設長 佐藤忠正、いしどりや荘施設長 高橋信夫、松風園長 氏家康雄、ルンビニー苑長 三井信義、好地荘院長 菅原精一、宝寿荘施設長 川村峰子、千鳥苑施設長 伊藤静夫、花巻農業協同組合代表理事組合長 高橋専太郎、岩手銀行石鳥谷支店長 千葉健司、北日本銀行石鳥谷支店長 島山和男、花巻信用金庫石鳥谷支店長 戸来昭浩、第二福寿会長 浅沼行夫、十九区子ども育成

会長 千葉勝弘、青松会元役員 高橋千枝子、青松会元役員 両川哲男、元職員 伊藤長、元職員 佐藤永子、元職員 菊池トシ子、元職員 川村邦子、島辰商店、(株) 田村電機、(有) 菅原動熱、(株) 木津屋本店、(株) 長澤工務店、佐藤精肉店、菊昌輪業、はたけやま衣料店、(株) モリレイ、(有) キョーワ、(株) ホームセンター、岩長商店、ソーマ通信防災(有)、フォトシヨップうちばり、(有) 亀屋、さぎ魚店、(株) オリオンベーカーリー、藤原写真館、(株) ハコシヨウ食品工業、小川口商店、藤澤典成、山本誠、山本篤雅、菊池徹也、菊池和也、佐藤純枝、小原美由紀、安藤三枝、渡辺明子、松本政子、松本恵美、(株) ヤマト代表取締役社長 緑川輝男、(株) N T T ドコモ東北支社長 鈴木哲哉、学園歌作詞作曲者 大島恵司、岩手県議會議員 小田島峰雄、北上教材社、(株) エルサイカツ、花巻マツダ、永井文化堂、光衛生社、高瀬タイル、菊池徹、菊池沙織、菊池直子、菊池ゆう子



社会福祉法人青松会、児童養護施設清光学園創立三十周年記念式典・祝賀会の開催に当たり、多数



の皆様方に多大なご協力、ご支援を賜りました。あらためて心よりお礼申し上げます。

編集後記

子ども達の歓声と職員のため息、この両極端な反応をもたらしたものの正体？ それは雪です！ 子ども達は積もった雪をスリッソンの初めの雪遊びを楽しんでいます。寒さを感じることもなく、元気に遊んでいます。子どもたちの姿と清光学園二十年の歴史を支えた原動力がもしもません。三十年目の新たなスタート、一歩一歩確実に児童職員一緒な歩んでいきたいものです。

(澤)